第16911号　（第3種郵便物認可）

延岡史談会が研究成果発表

九鬼さんは「内藤藩の台所事情」

延岡史談会（後藤博文会長）の三部会発表会が3月24日、延岡市市民協働まちづくりセンターであった。会員ら約40人が参加。史跡部の甲斐國行さんが「武道と歴史」、民俗部の磯貝透さんが「ひむか神話の史実性について」、古文書部の九鬼勉さんが「御用部屋控えに見る内藤藩の台所事情」をテーマに研究成果を発表した。

このうち、九鬼さんは244年前の安永3（1774）年に書かれ、県史にも記載されている「安永三年正月十五日延岡御役方江被仰出候御書付壱通」の原文と訳文などを示して、内藤家延岡藩が財政難に陥っていたことを解説した。

それによると、磐城平藩から延岡藩に転封されて来た内藤家は石高収入が大いに減り、江戸から遠くなったため参勤交代による支出が増加。経費削減をしたり、商人から借金したりして対応したが、藩船や内藤家上屋敷が焼けるなど臨時の経費が加わった。「殿様としては家臣がかわいいからできることなら給料削減をしたくないが、やらざるを得なかった」と話した。

また、財政方策だけでなく政治のことも含めて、「身分の上下関係を越えて、意見のある者は書面に記して伝えてほしい」との旨の通達があったことなどを伝えた。

九鬼さんは「240～250年前の話だが、内藤家はずっとこういう経済状況だった」と締めくくった。

延岡史談会の三部会発表会

2018.4.4

棚田のチューリップ見頃

4/4 日之影町中川地区 色とりどり3万5千本

日之影町七折の中川地区で、棚田に植えられた色とりどりのチューリップ約3万5千本が見頃を迎えている。3日現在、九分咲き。8日には恒例のチューリップ祭りが予定されている。

同地区では、平成15年から農閑期の水田や畑を活用した「チューリップの里づくり」に取り組む。毎年、稲刈りなどを終えた田畑を耕し、その年の春に咲いたチューリップから採取、乾燥させた球根を植栽している。

見頃を迎えたチューリップは、昨年12月上旬に地域の人たちや、宮崎市のNPO法人が運営する「九州つなぎ隊」のメンバーら約40人で植えたもの。赤を中心に黄、オレンジ、紫、白の花が仲良く寄り添うように棚田を彩っている。

中川地区の棚田を彩るチューリップ（3日）

地元の「中川チューリップの里づくり協議会」の瀧川宗和会長（69）によると、先月20日ごろから咲き始め、このところの陽気で一気に開花。野生のシカが花びらを食べるなどしたが、被害は小さく、今月中旬ごろまでは楽しめるという。

8日に祭り

8日のチューリップ祭りは午前9時から午後4時まで。棚田にテントを設営し、農産物やうどんなどを販売するほか、地元の婦人会によるぜんざいの振る舞い（200食限定）もある。

同地区へは、延岡市方面から向かう場合、国道218号の青雲橋東詰めを右折して車で約30分。途中に案内板が設置されている。

枝垂れ桜をライトアップ

4/4 五ケ瀬町の浄専寺

県の天然記念物に指定されている五ケ瀬町三ケ所の浄専寺（寺本俊文住職）の枝垂れ桜が満開となった2日、大勢の花見客が夜間ライトアップを楽しんだ。

枝垂れ桜は樹齢約300年。江戸時代に同寺の第九代住職が京都祇園から苗木を持ち帰ったと伝えられ、同寺だけでなく、町内各所で見事に咲き誇った。

ライトアップは日没から午後9時まで。日が沈み、空が青み始めた午後7時前後がちょうど見頃。熊本市から訪れた男性（76）は「たまたま立ち寄りました。こんなに見事だとは」と盛んにシャッターを切っていた。

ライトアップされた枝垂れ桜（2日午後7時ごろ）

2018.4.4